

【 2030 冬期オリンピック・パラリンピック招致について 】

R4.12. 2 村田光成

(5) 2030 冬期オリンピック・パラリンピック招致について

2030 冬期オリンピック・パラリンピック招致について伺います。

先月 11 月 8 日、札幌市は招致を目指す 2030 年冬季オリンピック・パラリンピックの大会概要案の更新版を公表しております。物価高騰により、全体経費は当初の見込みより、170 億円上回り、最大で 3170 億円とされ、札幌市の担当者は報道において、市民への丁寧な説明に努めたいとしております。

また、報道では、スピードスケート会場を予定している、『帯広の森屋内スピードスケート場』を巡り、競技関係者などが、観客席が少ないなどとして、不備を指摘しているとの報道があり、そのことについて、鈴木知事は 11 月 2 日の記者会見で『北海道で協議が行われることが経済的に効果があり、地域は期待している』と述べ、現在の計画を前提に協議を進めるべきだとの認識を示したと承知しております。

帯広市の保有する『明治北海道十勝オーバル』は現在、イス席約 1,000 席、立見席約 2000 人の収容人数約 3000 人ではありますが、躯体改修などの大規模工事は行わず、2 階はホームストレート以外、3 階はホームストレート部分に仮設観客席を設置する。1 階は大会関係者のみが入場できるものとし、観客は 2 階に仮設する玄

関から出入りすることで、完全に動線を分離する計画により、観客席数を 2255 席に仮設整備し、大会終了後は撤去し現状復旧するとし、仮設改修費用として約 30 億円が見込まれております。

先日、11 月 21 日から 24 日の日程で、アジアスケート連盟の張明照（チャンミョンヒ）会長がスピードスケートのジュニア（15 歳から 19 歳）とその下の年齢区分ノービスの国際大会を来年 3 月帯広市で開催できるよう、帯広市長や関係者を訪れた際、帯広の森スピードスケート場の観客席数について、問題ないとの認識を示し、『帯広は世界的にもスピードスケートの中心地。多くの優秀な選手を輩出し、身近なスポーツとして地元の応援も盛んです。選手にとっても良い環境があり、来年開催のジュニア、ノービス対象の国際大会の開催は、五輪招致の後押しにもなる』との認識を報道関係を通し示されております。

改めて、『帯広の森屋内スピードスケート場』を巡り、国際競技団体などが観客席が少ないなどとして、不備を指摘しているとのことに対し、どう認識しているのかについて知事に伺います。

また、『開催地決定』のスケジュールは令和 5 年 10 月頃と認識しておりますが、たび重なる五輪汚職事件など、招致活動に与える影響もあるかと思っております、札幌市を含め道内全域において更に機運を高めていく必要があると考えますが、道として、今後どのように取り組んで行く考えなのか伺います。

(答弁：知事 鈴木直道)

- ・IOC の新基準では、競技会場については、収容能力に関する最低要件は設けられていない。札幌市としては、現在の計画を前提に協議を進めるものと承知。
- ・私としては、道内において開催されることは、スポーツ振興、地域の活性化や観光振興などにも繋がる、またとない機会となるものと認識。
- ・道としては、招致機運の醸成に向けて、道内市町村と連携した取組や、スローガンを活用した広報を行うとともに、札幌市が新たな大会概要案で掲げた『透明性・公正性の確保』を図り、市民や道民の皆様の理解が得られるよう、市の招致活動に連携・協力してまいる。